

目指す学校像	「温かい学校 感動あふれる学校」 ・時を守る ・場を清める ・礼を尽くす
--------	--------------------------------------

重点目標	1 生徒一人ひとりの実態に応じた確かな学力の育成を図る授業の工夫・改善 2 生徒が主体的に活躍し、達成感が味わえる教育活動の推進 3 地域の学校を目指した教育活動の推進と積極的な情報発信 4 指導力向上を目指した学び続ける教職員と働き方改革の推進
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

学 校 自 己 評 価							学校運営協議会による評価		
年 度 目 標							実施日令和 年 月 日		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等	
1	<現状> ○全国学力・学習状況調査 (R5) では、国語と数学が全国平均にあと少し、英語は大幅に上回っていた。一方で、市学習状況調査では、全ての学年において、全教科とも市平均に達していない状況である。 ○授業は落ち着いて受けられているが、知識の定着度や理解度に個人差が見られる。 <課題> ○市学習状況調査 (R5) の結果概要から、各教科のどの領域についても課題が見られ、既習事項の定着が必要である。 ○生徒アンケート (R5) の結果、「家庭学習をしている」に対する肯定的な回答が7割強で、前年度と変わらなかった。市学習状況調査 (R5) では、「家で自分で計画立てて勉強をしている」に対する肯定的な回答は5割強で、前年を4.3%下回った。家庭学習の取り組み方について、その成果が実際のテストに反映できるようにするなどの工夫が必要である。	・確かな学力の育成 ・「個別最適な学び」や「協働的な学び」に向けた授業改善	①各教科における現況と課題並びに達成目標の明確化を図り、基礎・基本の定着を目的とした小テストを各教科で実施することで家庭学習の習慣化にもつなげる。 ②定期テスト時の質問教室やスタディサプリの積極的な活用を生徒に促す。	①学校評価「授業は楽しくて分かりやすい」について、肯定的な回答が生徒95%以上・保護者80%以上となったか。(R5生徒94%、保護者69%) ②市学習状況調査(生活習慣)「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」について、肯定的な回答が60%以上となったか。(R5_1年50.0%、2年46.3%、3年61.9%)					
2	<現状> ○生徒アンケート (R5) の結果、「学校生活は楽しい」に対する生徒の肯定的な回答は94%、市学習状況調査 (R5) 「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合は、91%であった。 ○市学習状況調査 (R5) において、「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦していますか」、「自分には、よいところがあると思いますか」に対する肯定的な回答は市平均とほぼ同程度であり、自尊意識に関する項目は概ね肯定的な回答をしている生徒の割合は高い。 ○施設・設備に係る安全点検は定期的に行われているが、老朽化している箇所も増え、修繕に十分対応できていない。 <課題> ○自己肯定感や自己有用感を高めるために、達成感を味わわせられる生徒主体の取組をより多くの場面で継続的に行っていく必要がある。 ○生徒一人ひとりの状況を踏まえ、より適切な支援体制を構築していく必要がある。 ○定期的な安全点検に加え、事故を未然に防ぐ視点をもった危機管理意識を高めていく必要がある。	・生徒が主体的に活躍する教育活動の実施 ・生徒一人ひとりを大切にす安心・安全な支援体制の推進	①学級活動、生徒会活動、学校行事等における生徒による話し合い活動を活性化し、生徒自身が決めた内容を盛り込んだ取組を積極的に実施する。 ②朝礼等の際に、生徒会本部や各生徒委員会独自の取組を発表したり、呼び掛けを行ったりできる場を設けることで、生徒による主体的な企画運営ができる力を身に付けさせる。 ③行事後の振り返りを通し、自分自身の行動に責任をもてるエージェンシーの育成を図る。	①学校評価(教職員アンケート)「学級活動」「学校行事」「生徒会活動」について、肯定的な回答が95%以上となったか。(R5:学級活動85%、学校行事87%、生徒会活動90%) ②学校評価(保護者アンケート)「行事を通じて子ども達の個性や能力を高めるように努めている」について、肯定的な回答が95%以上となったか。(R5:89%) ③心と生活のアンケートにおける「信頼自己」の項目の割合が17%以上とすることができたか。(R5:16.4%)					
3	<現状> ○市学習状況調査 (R5) の「今住んでいる地域の行事に参加していますか」や「ボランティア活動に参加したことがありますか」に対する肯定的な回答は、どちらも市平均を4%程度下回っている。一方、「地域の人たちは、自分たちを見守り、支えてくれている」に対する肯定的な回答は、市平均を1.4%上回っている。 ○朝のあいさつ運動やチャレンジスクール等の様々な場面で、PTA や地域の方々にも多大な協力をいただいている。 <課題> ○学校運営協議会で熟議した内容を具体的な方策にしていく必要がある。 ○学校だよりやホームページに加え、生徒の活躍している様子を地域に積極的に発信するための手段等について検討する必要がある。	・地域の学校を目指した教育活動の推進 ・地域への積極的な情報発信	①学校運営協議会において、生徒を地域で活躍させる方策について検討を重ね、具体的な手立てを決定する。 ②地域や公民館の活動、避難場所運営訓練等への生徒のボランティア活動への参加を促す啓発活動を行う。 ③大久保東公民館と連携した中学生向けの防災講座を円滑に進める。	①市の学習状況調査の「学校に行くのが楽しい」に対する肯定的な回答が前年度を上回ることができたか。 ②学校評価(生徒・保護者アンケート)「教育相談」に係る質問に対する肯定的な回答が90%以上となったか。 ③学校評価(教職員アンケート)「組織運営」について、肯定的な回答が80%以上となったか。(R5:66%) ④学校評価(教職員アンケート)「施設・設備の管理」に対する肯定的な回答が80%以上となったか。(R5:68.9%)					
4	<現状> ○本年度から、「『学びのポイント』の視点に基づく授業改善 (ICT を活用した学びの推進)」をテーマにした研究を行っている。 ○授業時における ICT の活用には差が見られる。 ○勤務時間の削減を始め、働き方改革を実感できない状況が見られる。 <課題> ○生徒自らが ICT を活用しながら、主体的に学習に取り組めるような授業づくりを推進していく必要がある。 ○業務の一層の効率化並びに軽減が必要である。	・指導力向上を目指した学び続ける教職員 ・業務の効率化並びに軽減に向けた働き方改革の推進	①キャリア振り返りシートに基づいた受講奨励を行い、研究発表会や研修会への参加を積極的に推進する。 ②各教科で、生徒の実態に応じた指導方法を研究し、積極的に公開・研究授業を設け、本校独自の授業スタイルを構築する。 ③業務の見直しをもち、To Do リストの活用、定時退勤日の設定、年休の取得日数10日以上での設定等、メリハリのある勤務を推進し、在校時間の削減や働き方改革を進める。	①全教職員が研究発表会または研修会に参加できたか。 ②「学びのポイント」の視点に基づく授業改善に向けた公開・研究授業を実施するとともに、本校独自の授業スタイルを構築できたか。 ③「教員等の勤務に関する意識調査」における負担感・多忙感が80%以下 (R5:92.3%)、学校業務改善の取組の肯定的な回答60%以上となったか。(R5:42.3%)					